

第3種郵便物認可

# 津波 浸水情報はっきり 色分け避難図

南海トラフ巨大地震に備え、鳴門市は、色弱の人も見やすい津波避難マップを新たに作った。あらゆる色覚タイプの人に情報が伝わる、「カラーユニバーサルデザイン」(CUD)の普及を目指すNPO法人の認証を受け、CUDマークを表示。自治体のマップが認証を受けるのは県内で初めて。今月、市内の2万5千全戸に配布した。

## 南海トラフ 鳴門市が改定



新たな津波避難マップを、4通りの色覚タイプで見た場合の一例。いずれも色の境界が見分けやすい＝鳴門市役所

### 「カラーユニバーサル」認証

マップは、県が2012年10月に発表した独自の津波浸水想定をもとに、6年ぶりに改定。避難する際の目安となる7段階の「基準水位」を、判別しやすい色分けで表示した。

紫は、基準水位が最大の5〜10メートル未満の区域。焦げ茶が4〜5メートル未満、オレンジが3〜4メートル未満など。A3判で、津波避難ビルの所在や避難路なども示し、裏面には避難時の心構えなどを紹介。市内14地区ごとに作成した。従来の避難マップ

は、色弱のタイプによって赤、緑、茶が同様の暗い色に見えたり、水色やピンクがグレーに近い色に見えたりすることもあり、色弱の人は浸水エリアを見分けにくかった。

市は12年1月に市内であった会合で、「見分けにくいと津波から逃げる機会を逸しかねない」と専門家に指摘され、改定を機に色分けを変更することにした。マップを認証した「カラーユニバーサルデザイン機構」(東京)によると、程

度の違いはあるが、男性の5%が色弱に該当するという。機構は、印刷物や機器、建築物などについて、色遣いが誰にでもわかりやすいかどうかを検証。CUDと認証したものは、基本的にすべての色弱の人に対応できるという。

同市は広報誌でもCUD対応を始めている。泉理彦市長は「津波の浸水エリアは、すべての住民に対してはっきり示す必要性が高い」と話している。

(亀岡龍太)

## 7段階、色弱の人にも安心